

## 講演会及び研究集会の記録

## 第13回（平成24年度）弘前大学FDワークショップ

（21世紀教育センター）

21世紀教育センター主催による第13回FDワークショップが、弘前大学創立50周年記念会館を会場に、6月9日、10日の2日間にわたり開催されました。今回のテーマは「大学準備講座ワークショップ」であり、学生主体の授業のあり方を考えながら、授業目標や成績評価の設計方法を議論し、模擬授業を通して授業方法の改善について研修することを趣旨に実施しました。参加者は就任5年以内の新任教員を中心に、他大学も含めて19名、さらに4名の学生の参加、ミニレクチャーの講師、21世紀教育センターの教員事務職員も合わせると、総勢39名となりました。

今回はミニレクチャーの後、各グループに分かれて作業を行い、各グループの議論の結果について、パワーポイントを使った発表と、その発表に対する質疑討論をセットにしたものを計3回（2日間）繰り返します。グループ作業では、仮想の授業設計により、授業目的、評価方法、授業実践の3つの基本的なことを体験します。また平成24年度ワークショップでは、模擬授業を行い、他の教員や学生が良かった点と改善すべき点を指摘するという作業を取り入れました。能動的な学習の実践をどのように進めれば良いか、教員と学生の相互交流を深めながら、効果的な授業作りを目指します。

中根教育担当理事による開会の挨拶の後、まずメンバーの気持ちが打ち解けるように、田中正弘21世紀教育副センター長による「アイスブレイキング」を行い、各グループの名前を決めることから始まりました。

それぞれの共通項や特徴が現れる名称ということで「びっくり☆スノー」「熱血サポーターズ」「Φ（ファイ）」「Univer's」という個性的なグループ名が出そろいました。

○ミニレクチャー（1）：小岩副センター長から「シラバスの書き方」についてのミニレクチャーがありました。Ⅰ授業は設計から、Ⅱ授業のシラバス、Ⅲ設計のポイント、Ⅳ設計を高めるには、という順で講義が進み、実際のシラバスを参考に、授業の設計からシラバスに落とし込むにはどうするかというわかりやすい説明でした。

○グループ作業（1）：この後、各グループで授業の副題・目標の設定に関する作業が行われました。それぞれのグループの授業名は「方言に見る言語変化」「スポーツ科学」「弓道入門」「日本社会史」と決まり、作業が開始されました。

○ミニレクチャー（2）：21世紀教育担当から「Moodle（ムードル）、クリッカーの利用」というテーマでミニレクチャーがありました。弘前大学で導入しているオンラインで行う学習管理システムであるMoodleと、講義中に学生がリモコンを使用して回答するクリッカーの概要や利点について説明しました。参加者には実際にクリッカーを使用して質問に回答してもらい、今後の活用の参考になりました。

○グループ作業（2）決めた授業名について、さらに授業内容および評価を設定する作業が進められました。授業を15回に分け、どの時間でどのような事を行うのか具体的に討論しました。

○ミニレクチャー（3）：田中副センター長から「授業観察の勧め」というミニレクチャーがありました。自分なりの教育観を持ちつつ、それを他人と比較することによって進めるべきであることが指摘されました。一般的な90分の講義時間を、15分の導入、60分の展開、15分のまとめに分けて授業を進めることが有効であることが示されました。

○グループ作業（3）：模擬授業案の作成を行いました。翌日の模擬授業に備え、各グループが議論を続けていました。一日目はここで終了です。

○グループ発表：翌日、いよいよ各グループによる模擬授業を開始しました。模擬授業15分、その後の質疑応答が20分の予定で進められました。中根理事、21世紀教育センターの面々も受講学生として模擬授業に参加しました。各模擬授業が終るごとに、他のグループから授業の良かった点と改善点、修正が必要だと思われる点について議論され、お互いに切磋琢磨することの重要性を実感しました。

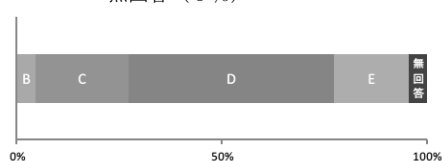
今後のワークショップの改善に向けて、今回も参加者にアンケートをお願いしました。以下、その結果をまとめてみます。

設問 1 今回のワークショップを全体的に評価してください。

(1) 内容の価値についてどう評価しますか。

(回答数 22)

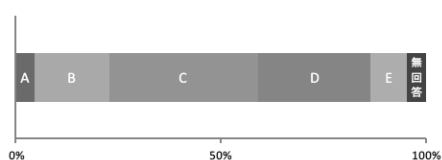
- A 価値なし (0%)
- B 価値少ない (5%)
- C いくらか価値あり (23%)
- D かなり価値あり (50%)
- E きわめて価値あり (18%)
- 無回答 (5%)



(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。

(回答数 22)

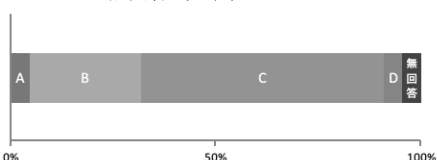
- A 多すぎ (5%)
- B やや多い (18%)
- C ほぼ適当 (36%)
- D やや少ない (27%)
- E 少なすぎ (9%)
- 無回答 (5%)



(3) 内容の難易をどう感じましたか。

(回答数 22)

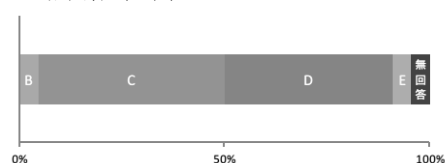
- A きわめて難しい (5%)
- B やや難しい (27%)
- C ほぼ適当 (59%)
- D 少し易しい (5%)
- E 易しすぎ (0%)
- 無回答 (5%)



(4) このようなワークショップ形式の効果についてどう思いましたか。

(回答数 22)

- A 効果なし (0%)
- B 効果少ない (5%)
- C ある程度効果的 (45%)
- D かなり効果的 (41%)
- E きわめて効果的 (5%)
- 無回答 (5%)



(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

(回答数 22)

- A 全く不適切 (0%)
- B やや不適切 (5%)
- C ある程度適切 (45%)
- D かなり適切 (41%)
- E きわめて適切 (5%)
- 無回答 (5%)



大半の参加者が内容には価値があると評価しています。時間量については、今回は宿泊形式ではなかったため、「少ない」という意見が多く見られました。難易度としては「やや難しい」と感じられた参加者も多かったようです。効果と興味に対する設問はおおむね良好でした。

設問 2 今回のワークショップ全体にわたりとても良かったと思われる点

(自由記述)

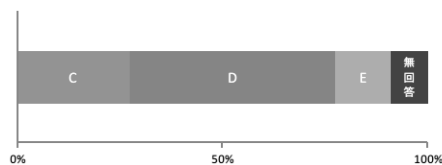
グループ形式ということで、多様な意見を聞くことができた、他学部の教員との交流を図る事ができたなど、総合大学ならではの、様々な分野の教員と議論できる事が評価されています。

設問3 今回のワークショップ全体にわたり  
改善すべきと思われる点（自由記述）

模擬授業の準備時間が足りない、少ないというのがもっとも多い意見でした。模擬授業のためにグループで議論をする時間が少なく発表者任せになってしまった、講義テーマの選択肢があってもよい、などの意見もありました。

設問4 このワークショップで示されたよう  
な方法を今後取り入れようと思いま  
すか（回答数 22）

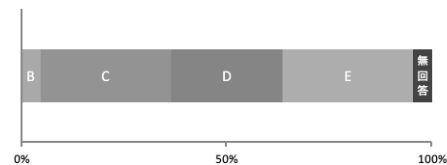
- A 全く取り入れる気はない（0 %）
- B あまり取り入れようと思わない（0 %）
- C 少し取り入れてみたい（27 %）
- D かなり取り入れてみたい（50 %）
- E 大いに取り入れたい（14 %）
- 無回答（9 %）



アンケート結果を見ると、今回のワークショップで学んだ方法を今後の授業に取り入れてみたいと考える参加者が多く、今後このようなワークショップの開催も積極的な意見を持っていることがわかります。

設問5 今後ともこういうワークショップを  
持つことに対して（回答数 22）

- A 全く取り入れる気はない（0 %）
- B あまり取り入れようと思わない（5 %）
- C 少し取り入れてみたい（32 %）
- D かなり取り入れてみたい（27 %）
- E 大いに取り入れたい（32 %）
- 無回答（5 %）



設問6 このワークショップの成果に関連し  
て、今後1年の間に実施したいと考  
えていることを箇条書きにしてくだ  
さい。

シラバスの書き方や授業計画の見直し、授業における工夫などについての意見が目立ちました。

全体を通して、時間が足りなかったという反省点があるものの、内容は充実し、今後の活用につながるような、満足のいくものであったとの評価だと思われます。